

CSR REPORT 2023

旭食品グループ



経営企画本部 経営企画部 CSR 推進課
〒783-8555 高知県南国市鎮石 246
tel.088-880-8720
fax.088-880-8702

<https://www.asask.co.jp>



本報告書の無断の転載・複製を禁じます。

旭食品グループの主なCSR活動



旭食品グループは
「食のライフライン」を通じて
SDGsの達成に向けて活動します。

※「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2015年の国連サミットにおいて採択された世界共通の17の目標で2030年までに国際社会全体が協力して達成を目指すものです。

目次

編集方針	3
TOP MESSAGE 不透明な時代、CSRは企業の多様な対応力を鍛える	4
CSR VISION / CSR活動のロードマップと推進体制	5
特集 地域課題に取り組む事業拠点の活動	6
旭食品グループ TOPICS 2023	8
重点取組	
地域産業の創出と支援 土佐山モデルをもっと深く広く未来へ	10
地域コミュニティ支援 高校生の斬新な発想をものづくりで支援	12
働く仲間の成長 仲間たちの「健康」こそ最大の原動力	14
基礎的取組	
安全と安心 仕組みづくりと風土づくりで万全を期す	16
環境と資源 地球環境・資源保護へさらに一歩	18
地域との関係を深める 参加しやすい活動できっかけをつくる	20
旭食品グループ概要	22
コーポレートガバナンスとコンプライアンスの基本方針 / 編集後記	23

編集方針

旭食品グループは、持続可能な社会の実現に向けて果たすべき社会的責任（CSR）について、その考え方や行動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、『旭食品グループ CSR 報告書』を発行しています。

2023 年も、昨年から続く不安定な世界情勢やそれに起因する資源高による物価上昇など、不透明な経済・社会情勢が我々の生活に影響を与え続けています。旭食品グループの働く仲間（従業員）は、そのような状況下でも活動領域を拡大しながら、それぞれの地域で旭食品らしい CSR 活動を目指して取組を続けています。

特集では、商品開発を基軸に、地域課題の解決や地域貢献の取組を進めている事業拠点の具体的事例を採り上げてお伝えしています。また、各重点取組では、働く仲間が各地で継続して行う活動をご紹介します。

このような活動をできるだけ多く採り上げてお伝えすることで、地域の方々をはじめ全てのステークホルダーの皆様のご理解をいただき、地域・社会の抱える課題解決に向けた活動をさらに前進・深化させたいと考えています。

旭食品グループが取り組む CSR 活動をより良いものにしていくためにも、読者の皆様より忌憚のないご意見をお待ちしています。

対象範囲

旭食品グループ全体

対象期間

2022 年度および 2023 年度上半期。ただし、一部の記述はそれ以前の経緯や将来の活動予定にも触れています。また記事中に登場する関係者の所属・肩書などは活動当時のものです。

発行日

2023 年 11 月 8 日

TOP MESSAGE

不透明な時代、 CSR は企業の多様な対応力を鍛える

この不透明な世界で

コロナ禍はいったん収束しかかっているようですが、世界はいまだ戦争の脅威と経済の混乱の只中にあります。私は、この不透明感がある種の警鐘と捉え、しばし立ち止まって辺りを見回す必要があると思っています。

とはいうものの、「食を届ける」という私たちの使命は待ったなしです。それだからこそ、旧習にとらわれず、失敗を恐れずに仮説・実行・検証を繰り返し、“あの手この手で” 現状の課題を乗り越えていかなければなりません。みずからの考えに基づく「自由な経営」が突破口をつくり出すはずです。

今期経営方針に掲げた「高弾力性」もこの考え方につながっています。見通しが利く時代は「生産性」が重視されますが、そうでない時代は対応力や耐震性などの「弾力性」が有効です。多くの CSR 活動では、生産性だけでは解決できない課題に向き合いますが、企業はこの取組を通して弾力性のある判断と行動を学ぶことができるのです。

地域連携、未来志向

一方、今期打ち出した「地域連携、未来志向」は、旭食品が大切にしてきた「地域密着、現場主義」を包括するスローガンです。「地域密着、現場主義」は文字通り、我が社の成長を引っ張ってきた考え方ですが、やや自社の営業活動に寄ったところがあります。これからは、食のサプライチェーンを舞台に、いろいろなパートナーと連携して未来を切り拓くことが重要になります。世界を広げ、外へ外へと拡大していくアメーバ思考です。

具体的には、食のサプライチェーンを上流→下流と固定的に捉えず、あちこちで生まれているビジネスの兆しを積極的に見つけ出し、チャンスを探していくという考え方です。そのときに、地域の中の、また地域をまたぐ「連携」が力を発揮します。こうしたサプライチェーンの開拓・深掘りにも、CSR 活動で養った社会を見る眼力や未知の領域へ赴く脚力が生きてくると思うのです。



旭食品株式会社 代表取締役社長
竹内 孝久

新しい方程式をつくる

CSR 活動のやり方は、各地区の責任者が働く仲間と相談して自由にやればよいと考えています。ただし、継続させるには、その活動が会社の事業に広さと深さをもたらす、地域に価値をつくり出すものでなくてはならないと伝えています。それには、1+2 が3ではなく5になるような仕組みやパートナーが必要です。こうしたプラスアルファを生み出す「方程式」を考え出す段階に来ているのは確かです。

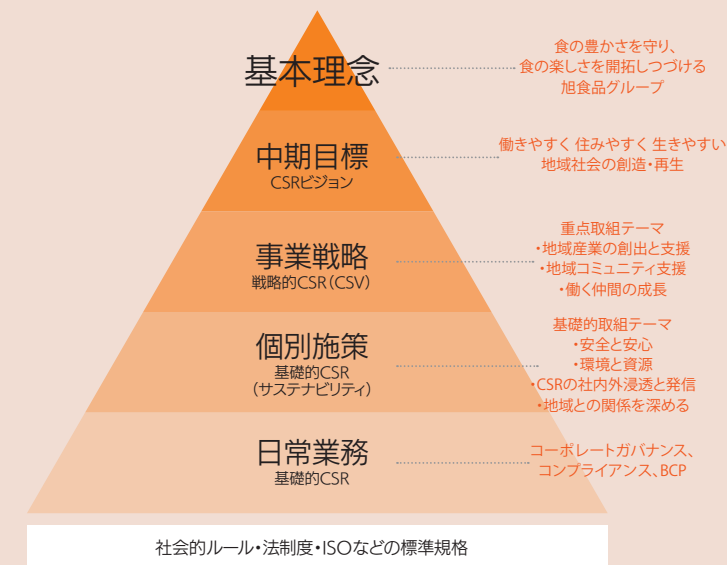
本年、旭食品は100周年を迎えました。かつて高知から各地へ出ていった先達たちは、前例を破る自由闊達で現代の食品流通業を構築し、高度化を実現してきました。

しかし今、オーバーストアの現状を睨んで、私たちの役割も変わります。過剰な飽和状態を無理のないレベルへ調整し、標準化や効率化を進めるのはやぶさかではありません。ただ、単純なサプライチェーンの簡素化によって、食の豊かさを破壊することに私たちは反対です。ムダを省きながら、食の多様性を追求したいのです。

「食の豊かさを守る」という使命は、「地域の豊かさを守る」というCSRの基本理念に重なっています。100周年を機に、「地域問屋」の自覚を新たにした旭食品は、地域という鏡に自身を映し、さまざま角度から見つめ直していきます。なにとぞ今後もご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

CSR VISION

働きやすく 住みやすく 生きやすい地域社会の創造・再生

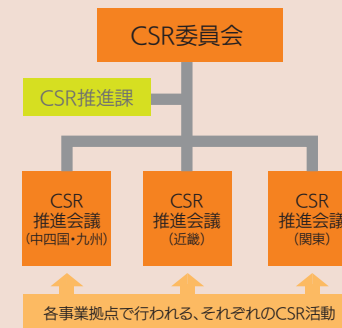


CSR 活動のロードマップと推進体制

旭食品グループが取り組む CSR 活動のロードマップは、2019 年度から 2023 年度までの 5 年計画で実行されてきました。「準備」「実装・浸透」期が順調に推移した後、2021 年度より「施策の継続的展開」期を迎え、各事業拠点がそれぞれの地域で CSR 活動に継続して取り組んでいます。

CSR 活動の推進体制は「CSR 委員会」と「CSR 推進会議」を設置して、グループ全体の活動の方向性の確認や提示、各事業拠点での活動の進捗点検や共有などを行い、CSR 活動の改善と推進を主導しています。

また、グループ内に向けた活動では、①各事業拠点の活動実績の共有、②CSR 活動関連資料の作成・発信、③新入社員に向けた旭食品グループ CSR 活動の紹介など、これまでの取組を継続しながら、新たに CSR 活動の知識を深める講習資料の作成・配信によってさらなる意識醸成も図っています。今年度は5年計画の最終年となりますので、これからの方向性の検討も始めています。





特集

地域課題に取り組む 事業拠点の活動

旭食品グループのCSR活動は全社に広がり、各地域の事業拠点が積極的に活動を行っています。子どもたちとの新たな取組、高校生や異業種企業との地域商品の開発、多彩な地域貢献活動など各事業拠点が「地元」の課題を見すえて活動しています。今号の特集では、松山支店・名古屋支店のCSR活動をご紹介します。

仲間たちをつないで地域を元気に！

——松山支店、地域活性化の取組

松山支店は地域でさまざまなCSR活動を行っています。代表的な実践には、地域産業の創出と支援を目的に県内企業と共同で行う商品開発があります。コロナ禍中に需要が減少した県内産品の真鯛や鰯（はも）などの食材を使用し、㈱エフエム愛媛様や地域の食品メーカー様など県内企業を松山支店がつなぎ、共同で商品化して販売する取組です。

これまでに実現した「茶碗蒸しシリーズ」や「鍋つゆ・万能つゆ」などの商品は、発売時に四国のFM4局を通じてPRを行い、旭食品の四国内外の事業拠点も協力してより多くの皆様に商品を届けることで、愛媛県を代表する産品生産者の方々に支援することができました。

また、以前より継続参加している「愛媛ラーメン博」や「重信川クリーン大作戦」、連携協定を結ぶ東温市

の「水防工法訓練」などのイベント参加、お得意様や各メーカー様と協力して開催する、小学生のスーパーバイヤー体験イベント「キッズフードランド」や「こどもバイヤー」などを通して、地域のパートナーの皆様との協力関係はさらに深まっています。



松山支店 滝本修 支店長のメッセージ

支店のCSR活動は、それぞれの活動ごとにキーマンおよびメンバーとなる働く仲間を決めてチーム体制で対応しています。対応にあたっては、①働く仲間が協力して活動を推進すること、②地域の行政やメーカーなど異業種との連携の強化と拡大、③地産地消・外商の推進、④地域課題の解決をパートナーと共有することを大切にしています。

今後は、これまでご協力いただいたお得意先やメーカー、地域の生産者や行政、異業種企業の皆様

との連携をさらに深め、今まで以上に食を通じた地域貢献を進めたいと考えています。また、働く仲間がCSR活動を通じて、働きたいややりがい共有し、地域から頼られる問屋への成長を目指して活動を継続実施することで、旭食品グループの強みや問屋の価値をステークホルダーの皆様理解していただきたいと思います。



地域発の商品づくりで築くパートナーシップ

——名古屋支店、地域の高校生との商品共同企画

名古屋支店は、地域の高校とコラボし商品共同企画を行っています。2021年に愛知県立佐屋高等学校と地域特産のレンコンを使用した「愛媛れんこんうどん」、2022年には愛知県立中川商業高等学校と「いちごみるく素」を開発し商品化しました。

高校生との商品共同企画は、チームとなる生徒の皆さんにまず食の知識を持ってもらうため、講習などを通して食品の啓発活動から始めました。ただ、新型コロナウイルス感染症の蔓延で活動が制限されて商品化の目途が立たず、もどかしい思いをすることも多くありました。それでも、一緒に知恵を出して協力し合う中、時間は要しましたが商品化と地元スーパーでの販売に漕ぎ着けることができました。

この活動を通じて築いた友好関係によって、これまで

で5名の卒業生を働く仲間（従業員）として迎え入れられたことは名古屋支店にとっても大切な経験となり、支店の士気向上にもつながっています。

その他にも「フードバンクへの食品寄贈」、「献血活動」、「ペットボトルキャップの収集」、「WFPウォーク・ザ・ワールドへの参加」など活発に活動しており、支店従業員全員で地域貢献に取り組んでいます。



※愛知県立中川商業高等学校は、2023年度より愛知県立中川清和高等学校に学校名を変更しています。

名古屋支店 溝田豊 支店長のメッセージ

CSR活動の開始当初は、活動目的や方向性を含め全て私主導の活動でしたが、地域貢献活動は支店全体の取組にしないと意味をなさないと考え、活動の進捗や課題を支店全員で共有し、話し合う環境をつくりました。今では、高校生との商品開発やフードバンクとの協働作業、献血活動などの活動で、従業員個々が自発的に情報の共有、作業の分担、活動課題の抽出やその対応を行う様子が見えてきたことを

大変うれしく思っています。

今後は、自治体や地域の企業とも連携し、ステークホルダーも巻き込むような活動範囲を広げた取組を考えています。CSR活動を通じ、私たちの地域への想いを地域の皆様に伝えていくと共に、働く仲間と一緒に地域に誇れる事業所を目指したいと思っています。



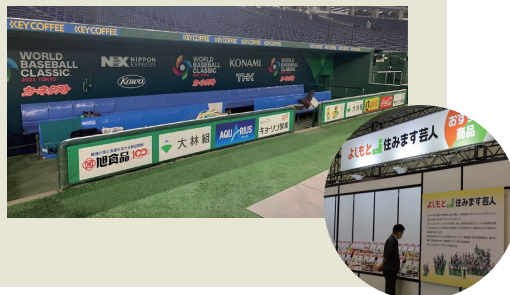
おかげさまで創業100周年を迎えました ——記念イベントの紹介

1923年開業の竹内商店（食料品・塩干魚類の卸・小売業）から始まった旭食品は、今年で創業100周年を迎えました。100年の節目を盛り上げるさまざまな記念イベントを計画・実施しており、すでに実施した記念イベントをいくつか紹介します。

記念イベントの第一弾は3月、東京ドームの1塁側と3塁側ベンチ前のフェンスへの看板広告の設置です。設置直後に開催されたWORLD BASEBALL CLASSIC 2023のテレビ中継で、日本代表選手と一緒に旭食品の看板が画面上に度々映り、SNSでこのシーンが話題になりました。このニュースは地元の「高知新聞」で取り上げられ、お取引先様から看板のことが話題にされる度に私たちが誇らしく感じました。

また、7月に開催した商品展示会「フーデム」では、会場を例年の1.6倍の規模に拡大し、吉本興業

のお笑い芸人とコラボした「47都道府県吉本住みます芸人おすすめ商品」の紹介企画やお笑いLIVEなどの記念イベントで、来場したお客様に楽しんでいただきました。

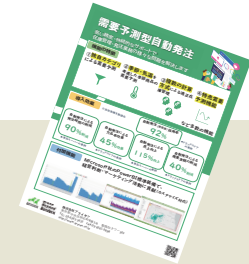


DX推進で働き方改革を!! ——需要予測型自動発注システムの威力

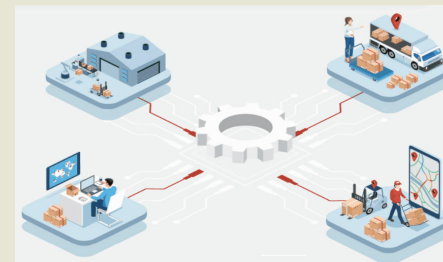
旭食品では、2019年から物流倉庫の発注業務にAI（人工知能）を用いた「需要予測型自動発注システム」の導入を掲げています。導入した倉庫では、これまで商品の発注担当者が経験や実績を基に決めていた発注業務の作業時間が、一人1日あたり約4時間から30分程度まで短縮され、同時に欠品が約4割、返品も最大で約3割低減しました。業務の効率化だけでなく、無駄なコスト削減も見込める働き方改革であり、有力なDX推進策として期待しています。

また、お得意先様に受発注システムなどを提供するグループ会社のパルネットコーポレーションでも「需要予測型自動発注システム」の提供準備を進めており、今年7月に開催した商品展示会「フーデム」でもお得意先様にご案内しました。季節や気温による販売動向を分析し、最適な在庫数や発注数を自動

的に生成する「需要予測型自動発注システム」を提供することでお得意先様のDX推進を後押し、「労働生産性の向上」や「経営判断に必要な情報のデータ化」などの仕組みづくりの面でもご支援したいと考えています。



▼自動発注システムのイメージ図



TOPICS 2023

家庭の食品ロスも「食べることで終わらせたい」 ——四国総合流通センターでフードドライブを実施

2023年1月、四国総合流通センターで食品ロス削減の取組としてフードドライブ※を初めて実施しました。現在発表されている全国の「食品ロスの量」（2020年10月時点）は522万t。その内訳は、事業系275万t（53%）、家庭系247万t（47%）と想像以上に家庭で廃棄される比率が高いことが分かります。そこで「家庭で発生する食品ロスの削減」に取り組むことも大切だと考え、フードドライブを計画しました。フードドライブBOXを10日間設置して家庭で消費しきれない食品の提供を呼び掛けたところ、当センターに営業にお越しになったメーカー様のご協力もあって、ダンボール9箱（約76Kg）の食品が集まりました。

旭食品グループでは、まだ食べることができるのに廃棄しなければならない「訳あり商品」をフード

バンクなどに多くの事業拠点で寄贈しており、また、年に2回開催する商品展示会で出展メーカー様からご協力いただいた展示・サンプル商品も同様に寄贈を行っています。

これからは食のサプライチェーン全体にかかわる旭食品グループは、食品ロスの問題に真剣に取り組みたいと考えています。



※ 家庭で食べきれない未使用食品を持ち寄り、フードバンクや子ども食堂、地域の福祉施設・団体などへ寄付する活動

高知の一大イベントが復活！ ——3年ぶりに開催、「高知龍馬マラソン2023」

旭食品は「高知龍馬マラソン」オフィシャルパートナーとして、第1回大会（2013年）から協賛しています。太平洋を望むコースや沿道からの温かいおもてなしが魅力の「龍馬マラソン」は、高知の代表的な祭り「よさこい祭り」と肩を並べる一大イベントです。

2023年2月に開催された第9回「高知龍馬マラソン」



ンは、曇り空で時折小雨も降る中、国内外のランナー総勢6988名が、42.195km先のゴールを目指し、高知県庁前をスタート。参加ランナーは、着ぐるみを着用したり仲間同士仮装姿で走ったり、それぞれ個性を表現しながら大会を楽しみました。

旭食品グループのランナーは第2回（2014年）大会より参加しており、勤務地域も役職も異なる働く仲間（従業員）が全国から集まり、フルマラソンに挑戦しながら、高知の魅力と走ることの楽しさを満喫しています。今大会には19名が参加し、沿道からの声援や拍手の中、早春の土佐路を駆け抜けました。

ゴール地点の高知県立春野陸上競技場の周りでは、高知県特産品の販売店や、高知らしさを味わえる飲食店ブースが出店し、参加ランナーを含む多くの人たちに賑わっていました。



重点取組 地域産業の創出と支援

土佐山モデルをもっと深く広く未来へ

土佐山の生産者・高知市と共に歩んできたゆず関連事業は、いくつもの課題を克服して基盤を確立し、全国に「土佐山モデル」の名を知らしめました。一地域の産業振興に留まらず、日本の第一次産業の可能性をさらに広げる改善と革新の取組を紹介します。



重点取組 地域産業の創出と支援



「みんなでつなごう ゆずのボタン」を合言葉に！

——4期目を迎えた『ゆず香る中山間地域の創造』パートナーズ協定

旭食品は、2008年に85周年記念事業の一環として、高知市・高知市土佐山柚子生産組合・旭食品の3者で『ゆず香る中山間地域の創造』パートナーズ協定を締結し、100周年を迎える今年、4期目の締結更新を行い16年目の活動をスタートさせました。4期目の柱は3つ、①ユズの安定生産・高品質化、②担い手の確保・育成、③土佐山ユズのブランド化を柱に活動することになっています。

本協定を締結以降、旭食品は継続的に高知市の「ユズ産地化対策事業」に対して協賛・協力し、また、生産されたゆず果汁の全量買い取りを行ってまいりました。それにより生産者組合は安心してゆずを増産でき、旭食品側も安定した原料確保ができるようになりました。

ちなみに、ゆずは高知県の中山間地域の基幹作物で

品質も高く、全国シェアは50%以上。1960年頃に生産を開始した土佐山地区でも今では重要な農産品となっています。



高齢化や人手不足に対する新たな選択肢に期待

——高知市農林水産部土佐山地域振興課 ご担当様に聞く

▼高知市農林水産部土佐山地域振興課
農業振興担当 森下 知子 様 (左) 係長 楠瀬 渉 様 (右)



「これまでの協定での取組で実感した効果についてお聞かせください。」

ゆずの苗木は毒性の高いウイルスに感染しやすいのですが、協定の締結以前は、土佐山地区外で

生産された苗木を購入することが一般的でした。感染した苗木があると成木も感染してしまい、ゆずの品質と収穫量が低くなり、生産量が非常に不安定な状況でした。

協定締結後は地区内で苗木生産と母樹管理ができるようになったので、感染問題は解決し、品質が低下した老木の植え替えも進みました。生産性が高い優

良な木の割合が半分以上になり、現在では生産量の増加と安定生産につながっています。

また、ゆず専任の営農指導員を雇用できるようになったため、全体の生産技術が向上したことも大きく影響しています。

一現状の課題の解決に向けて、今後の旭食品に期待することをお教えください。

ゆずの木の若返りで地区全体の生産量は増加傾向にありますが、生産者の高齢化や人手不足が深刻化しており、農作業の省力化が重要な課題になっています。旭食品様が現在手掛けておられるドローンによる消毒作業などの取組はその解決策の一つであり、生産者の方々はこうした新たな選択肢を提供される旭食品様を身近に感じていると思います。今後、生産者からの依頼がさらに増えて、スマート農業のモデル的な取組として発展することを期待しています。

ゆずの産地、土佐山の魅力をより多くのお客様に

——土佐山産ゆず果汁の販路拡大

旭フレッシュは、高知市土佐山地区で生産されるゆず果汁の全量を仕入れています。ゆず果汁は旭フレッシュが販売する飲料やドレッシングなどにも一部使用しますが、そのほとんどは旭食品グループが30年以上販売を続けるゆずボン酢「ゆずづくし」に使用しています。また、他社が製造するゆず関連商品の原料として提案し、飲料メーカー様が期間限定で販売するゆず飲料や大手コンビニエンスストアのゆず果汁を使用した企画商品、お得意先様のプライベートブランドのゆずボン酢などで採用され、着実に販路を拡げています。

とはいえ、土佐山産ゆず果汁の認知は十分に進んでいるとは言えません。まずは土佐山の魅力をより多くの方々に知っていただくため、収穫時期に開催する「土佐山ゆず祭り」やアンテナショップ「まるごと高知（東京都中央区銀座）」での販売イベント、商品

展示会への提案コーナーの設置などの多角的な活動を継続しています。

旭食品グループは今後も各事業拠点が連携して、土佐山産ゆず果汁と地域の魅力をより多くのステークホルダーの皆様にお伝えしていきます。

▼商品展示会の提案コーナー



中山間地域農業の未来に向けて

——生産事業本部六次産業推進部のスマート農業推進



旭食品は、昨年からゆず畑のドローンによる消毒作業を高知市土佐山地区に提案し、スマート農業の取組を開始しました。昨年度は5haの実績でした

が、今年度は10haを目標にしています。

高齢化や人手不足が深刻な問題となっている中山間地域では、重労働の一つである畑の消毒作業が原因で廃業する農家もあります。「そういった課題の解決になれば」と考え、ドローンによる消毒作業を提案

しています。

開始当初は、ゆず畑を所有する農家の方々に全国のドローン消毒作業の実態やスマート農業の必要性を説明するなどして、この取組を理解し納得していただくところから始めました。また、高知県の農業改良普及所と共同で行うドローン消毒の実証実験を実際に見ていただき、短時間で作業ができることや散布精度についても確認し、理解を深めていただきました。

今後も土佐山地区のゆず農家の皆さんや農業改良普及所の方々と協力し、中山間地域のスマート農業の推進策として、ドローンによる消毒作業を進め、農家や農産物の未来を描きたいと考えています。

重点取組 地域コミュニティ支援

高校生の斬新な発想をものづくりで支援

旭食品はこれまでも各地の高校生たちと商品開発を手がけてきました。高校生たちのフレッシュな発想に触れるのは「美味しいもの」の“今”を学ぶ貴重な経験です。各事業拠点がそれぞれの地域の高校生たちとタッグを組んだ興味深い事例を紹介します。

生徒たちのアイデアを商品化！

——旭フレッシュが地域の高校生と商品づくり

旭フレッシュでは、高知県立春野高等学校の生徒たちが考案した商品のアイデアを実際に商品化する取組を2021年より行っています。以前から、教育機関と取り組む地域貢献活動を模索していましたが、在籍する春野高校の卒業生を通じて校長先生を訪ねたことがきっかけで、食農系列コースの先生に取組の趣旨にご賛同いただき、同コースを選択する3年生が考えた「ぶどうゼリー（2021年）」と「トマトパン3品（2022年）」をそれぞれ商品化しました。受験を控える3年生と一緒に取り組むことが可能な期間は実質5カ月程度で、商品づくりの総合的なプロデュースは旭フレッシュが行いました。企画の段階から実際の商品化までの期間としてはかなり短期ですが、製造をご担当くださった社会福祉法人さん、かく広場様、販売を担ってくださったサンシャイン弘岡店様の協力もあり、無事商品化が実現しました。

発売日には、生徒たちも売り場に立って商品を販売し、「ぶどうゼリー」、「トマトパン」共に販売開始から1時間程度で完売するほどの好評ぶりでした。



——高知県立春野高等学校の生徒たちが発案した商品の紹介



2021年10月に販売した「ぶどうゼリー」は、春野高校の生徒たちが育てる大粒の高級ブドウ「藤稔（ふじみのり）」入りのゼリーです。販売価格は1個500円程度と、ゼリーとしては高価な価格設定に生徒たちからは心配する声もありましたが、店頭

に並んだ180個はあっという間に完売しました。

また、2022年9月には、春野産トマトを使用したパン「トマト食パン」「トマチーパン」「トマフォンケーキ」の3品を商品化して販売しました。春野地区は高知県内有数のトマト産地ですが、トマトづくりの過程で発生する規格外トマトを有効利用した商品として生徒たちが発案しました。商品に使用する規格外トマトは、生産者の方に生徒たちから申し出てハウスで苗の植え

替え作業などのお手伝いを交換条件とすることで提供の快諾を得ました。

旭フレッシュは、生徒たちの地域に対する思いを応援し、今後も取組を継続します。



重点取組 地域コミュニティ支援



働く仲間が母校の後輩たちと新商品を共同企画

——名古屋支店 白数彩花さん

旭食品グループには地域の高校生と連携する活動は複数ありますが、今回は自身が卒業した母校の後輩たちと商品開発に取り組む働く仲間（従業員）を紹介します。

名古屋支店に勤務する白数さんは、母校との地域発の新商品開発を支店内で提案し、2022年4月に愛知県立中川商業高等学校とのプロジェクトを開始しました。生徒たちの意見の取りまとめや、作業内容に関する講義の準備、会議の議事録作成などを白数さんが担当しました。母校と共同で行ったプロジェクトについて白数さんは「後輩たちと企画した『いちごみるく』が無事に商品化されて店頭で一緒に販売した際、お客様に声をかけて商品を買っていただいた時のとてもうれしい気持ちが今も印象に残っています。お客様と直接会話しながら商

品を販売する楽しさを実感できました」と当時を振り返ってくれました。

また、白数さんは母校の学校説明会で講師として受験を控える中学生に自身の高校時代の経験談や卒業後就職した名古屋支店の紹介、近況などを伝えることでも協力しています。中川商業高校と名古屋支店の取組は今後も継続しています。

※愛知県立中川商業高等学校は、2023年度より愛知県立中川清和高等学校に学校名を変更しています。



高校の伝統イベントで働く仲間が生徒たちをサポート

——和歌山支店が協力する「市校デパート」

和歌山市立和歌山高等学校が開催する「市校デパート」は、授業で学んだことの実践として、生徒たちが商品の仕入や経理などの業務を分担して行い、来場者に食料品や日用品を販売する46年前に始まったイベントです。

和歌山支店は以前からこのイベントに関わり、生徒たちの業務の支援や販売商品の解説、陳列方法、販売時のコツなどのアドバイスを行ってきました。支店には同校の卒業生が多く在籍し、働く仲間となった卒業生が後輩たちのサポート役を担当しています。

2022年11月開催の「市校デパート」は新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりとなり、全校生徒が初めて経験するイベントとなりました。それでも前回同様、会場内は熱気に溢れ、販売に苦戦する店舗でも

陳列方法を工夫したり、オリジナルPOPを作成するなどしてお客様に商品をアピールする生徒たちの姿がありました。

和歌山支店はこの伝統のイベントへの協力を今後も継続し、できるだけ多くの生徒たちがお客様と触れ合う楽しさを実感し、業界への興味を深めて欲しいと願っています。



重点取組 働く仲間の成長

仲間たちの「健康」こそ最大の原動力

働く仲間たちの心身の健康は会社がか最も重視すべき事項の一つです。そのために、一方では健康管理の仕組みをさらに整備し、もう一方では職場のコミュニティを活性化することが求められます。「健康経営」と「旭家」は個人と組織を強くする両輪です。

健康でいきいきと働ける職場を目指して！

——「健康経営」の進捗

旭食品グループでは、基本理念の“働く仲間の成長と幸福を追求すること”に則り、「健康経営」を進めています。従業員一人ひとりの健康が、自分自身はもちろん、家族の幸福、企業の成長、ひいては社会貢献につながるという考え方で。

いきいきと健康で豊かな社会生活を送れる環境構築を目指し、旭食品グループの「宝」である働く仲間（従業員）の健康づくりをサポートするため、2022年度は、①従業員の健康診断結果を基にした二次検診の受診勧奨、②ご家族の受診勧奨、③働く仲間の「参加型」取組として健康クイズ・健康セミナーを実施しました。その結果、①二次検診の受診率が34.8%（目標30%）、②ご家族の受診率が23.8%（目標30%）、③健康クイズ・健康セミナーの参加率が14%となりました。

2023年度は、2022年度の取組に加え、健康診断の全員受診（雇用形態や契約時間に関係なく）、屋内禁煙の実施、無農薬野菜の配布、働く仲間同士の運動促進等にも広げ、さらに健康意識を高めます。



▶運動促進を目的として働く仲間同士で昼休みに長縄跳びに挑戦

「健康経営」の成果がカタチになりました！

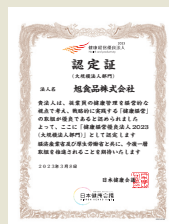
人事部担当者からの報告



2022年度の取組の結果が「健康経営優良法人」の認定に結びつきました。従業員の皆さんのご協力の賜物です。ありがとうございました。成果がカタチになって表れたのは担当者として非常にうれしい出来事でした。また、働く仲間全員を対象とした「参加型」取組の「健康クイズ・健康セミナー」を実施しました。初めての試みということもあり、問題点もありましたが、皆さんの健康意識の傾向をつかむことができました。

今後も旭食品グループで働く仲間全員が心身ともに健康で、いきいきと働くことができるよう、健康づくりをサポートします！

▼都市型農園で働く仲間が栽培した無農薬野菜の社内配布



重点取組 働く仲間の成長



働く仲間の生の声を聴く！

——旭家家族会議は発言と交流の場

旭家は、旭食品グループの働く仲間がいきいきと働くことのできる職場環境づくりを目指し、仲間の生の声を聴いて、何か問題があれば一緒に解決していきたいという想いで「旭家家族会議」を開催しています。各事業拠点の係長職以下の若手従業員10名ほどに参加してもらい、会議と懇親会の二本立てで開催、上席者がいないところで忌憚のない意見を出してもらいます。

「旭家家族会議」には社長も可能な限り出席し、旭家実行委員も複数名が出席して仲間の声に耳を傾けます。参加者から出された会社への要望、提案、疑問などは旭家実行委員から各担当部署長、担当役員まで報告します。旭家実行委員は、今後もより良い職場環境づくりのために活動していきます。



旭家実行委員からの報告 東京支社 管理本部 管理部 経理課

末次隼也さん

私が旭家実行委員会に加入したのは、実行委員をしている先輩に誘っていただき、働く仲間の皆さんのために何かできることがあれば、との思いからでした。家族会議に出席したのはまだ一度ですが、家族会議と懇親会とは参加者の違った一面が見られますし、旭家実行委員や他の参加者の方々の話を熱

心に聴いている様子も見ることができました。旭家では家族会議以外にもさまざまな活動をしています。これからも旭家家族である働く仲間の皆さんが、参加して良かったと思える活動をしていきたいと思っています。

小林柚子さん

私はこれまで2回「旭家家族会議」に参加しています。初回は旭家実行委員になる前に支店からの参加者として、2回目は旭家実行委員として名古屋支店での家族会議に出席しました。この2回の家族会議を通して感じたことは、「家族会議という場であるからこそ言える意見がある」ということです。普段はなかなか伝えることができない会社への熱い思いや相談事、こんな活動があったらいいなという意見を皆さんはお持ちだと思います。それらを伝えることができる場所、それこそが家族会議だと確信しています。今後もさまざまな事業所を訪問させていただき、「誰もが何でも言える場所」を提供したいと考えています。

そして、旭家の活動をより多くの働く仲間の皆さんに知っていただき、皆さんの意見を反映した活動ができるように全力を尽くしたいと思います。



基礎的取組 安全と安心

仕組みづくりと風土づくりで万全を期す

安全と安心は多くの業務領域にかかわる事項であり、日々の継続的な努力と工夫によって実現されるものです。

今号では生産事業と物流事業の二つの領域にスポットを当て、規格やルールなどの仕組みづくりとコミュニケーション促進などの風土づくりを紹介しています。



基礎的取組 安全と安心



「安心を、ずっと。」

——デリカサラダボーイ工場の安全・安心対策

デリカサラダボーイでは、食品事業者として食品衛生法・食品表示法・食品安全基本法などの法令に基づき、日々の衛生管理を行っています。製造過程において「加熱調理した食材の中心温度を計測する」「金属探知機で異物の混入がないことを確認する」などいくつかの重要な管理点を設定して記録・確認することで、安全・安心な商品づくりに努めています。

また、新たに取り組む衛生管理や既存の衛生管理の改善策などは、製造に携わるすべての従業員に周知徹底するため、問題点の数値化や改善状況の可視化、外国人実習生には通訳の常駐、理解度テストなどを実施しています。そして同じ工場で働く従業員の間で認識の齟齬がないように、確実なコミュニケーションを重視しています。

大切にしたいのは、デリカサラダボーイのホームページに掲載されている「安心を、ずっと。」です。安心して食べていただける商品をつくり続けるため

に、食品衛生にしっかり取り組み、皆様の食卓に貢献したいと考えています。



安全・安心、商品の信頼をグレードアップ

——JFS-B 適合証明を取得

2023年2月10日、デリカサラダボーイ山口工場は、一般財団法人食品安全マネジメント協会が認証するJFS-B 適合証明を取得しました。

JFS-B 適合は、同協会が定める3つの要求事項、①食品安全マネジメント (FMS)、②ハザード制御 (HACCP)、③適正製造規範 (GMP) で構成されており、これらをクリアすることで「食品事故につながる危害要因をコントロールできる工場」として認証されます。

いうまでもなく、これらの要求事項は独立したのではなく、互いに結びついているものです。当初は各要求項目の担当間で考え方や進め方に相違が発生することもありましたが、JFS-B 適合証明取得を目標に議論を重ね、色々な課題を乗り越えて達成しました。



デリカサラダボーイ山口工場は、今後も現状に留まらず、安全・安心な商品提供を追求していきます。

物流センターの安全対策を推進！

——ロジスティクス本部物流企画部の取組

旭食品グループの物流センターは、「労働安全衛生法」や「貨物利用運送事業法」、「下請法」などの法令に従って運営されていますが、法令の改正などが発生した場合には、全ての物流センターを統括するロジスティクス本部の物流企画部が情報発信などを行って、各事業拠点が抜け漏れなく対応できるように取り組んでいます。他にも、熱中症対策マニュアルの作成など、物流センターで働く仲間の安全を守る取組も物流企画部が行っています。

各物流センターは安全を最優先事項として、作業現場では「5S」※1の取組に特に力を入れています。これは、過去の事故事例からも、「5S」の取組強化が事故防止につながる事が明らかだからです。統一された清掃方法やチェック表作成の徹底、定期的な現

場の状況確認、さらにエリア管理部※2との連携により、より一層「事故が発生しない」、「作業員が安全に作業できる」環境づくりが可能になります。

また、専門事業者とも連携して「物流衛生管理講習」も開催しています。講習では衛生管理のアドバイスをいただき、物流センターの衛生管理の改善にも取り組んでいます。



※1「5S (ゴエス)」: 整理、整頓、清掃、清潔、躰、この5つの言葉の頭文字を取って5Sと呼ぶ。
※2 エリア管理部: 物流部門の課題に対応するため、各地区との連携強化を目的として新設された部署

より安全な物流センター運営を目指して！

岡山支店尾道営業所 平住正博 センター長のメッセージ



尾道センターでは、安全衛生面の取組として「衛生管理者の定期巡視 (週1回)」、「安全・衛生管理についての意見や要望の収集」、「各種感染症対策 (手指消毒・共有部分の除菌等)」を実施しており、定期巡視の結果は、安全衛生委員会にて情報共有し、改善策を協議して対応しています。

安全な物流センターの運営には、法令遵守はもちろんですが、センターで働く約50名の従業員が、労災事故につながるリスクの発見報告や改善点の要望などを発言しやすい職場環境づくりも重要なポイントです。雇用形態や役職、年齢などにかかわらず、気軽に話ができる、お互いに指摘し合える雰囲気づくりに取り組んでいます。

物流業界は「2024年問題」が目前に迫り、今後はリードタイム短縮やコスト削減が今まで以上に求められると予想されます。そういった状況下でも働く仲間 (従業員) と一緒に、より安全なセンター運営を心掛け、お客様のニーズに応えられる物流センターを目指します。



地球環境・資源保護へさらに一步

地域を守る取組を自治体と共に！

地域の方々と共に命を守る

地域の自然環境を守りたい

基礎的取組 地域との関係を深める

参加しやすい活動できっかけをつくる

CSR 活動は特別なものばかりではありません。誰もが参加できる地域の取組が出发点になることも多いのです。各地の事業拠点や働く仲間たちは、環境保全、清掃活動、チャリティイベントなどに積極的に参加し、地域住民やコミュニティとのつながりをつくっています。

SDGs スポーツで地域貢献

——境港支店「とっとりごみゼロプロギング」への参加



2022 年 6 月 25 日、境港支店は鳥取県が主催する中国地方初のプロギング公式イベント「とっとりごみゼロプロギング」に参加しました。プロギング (plogging) は、ゴミ拾い (plocka upp) と走る (jogging) をミックスした SDGs スポーツで、ヨーロッパを中心に世界中で流行しています。

参加者 20 名全員が、ニックネーム・趣味・参加理由などの自己紹介を行った後スタート。弓ヶ浜サイクリングコース約 3km 区間をジョギングやウォーキングをしながらゴミを拾いました。面識のない参加者同士が言葉を交わし、軽いスポーツ感覚で地元の美化活動を楽しめました。支店の参加者からは、大変有意義な時間を過ごせたといった感想がありました。

境港支店は地域のイベントに参加する際は旭食品

オリジナルTシャツを着用しています。その効果か、地元新聞に取り上げられたり、最近ではイベント主催者から「旭食品さん」と声掛けされたりすることも。地域イベントへの参加者も増え、CSR 意識も高まると共に、支店全体の連携や結束力も強まってきました。CSR 活動を通じて地域に貢献し、さらにまとまりのある組織に成長して、地域に頼られる問屋 (事業所) になることを目指します。



イベント参加で世界の子どもたちに貢献！

——「WFP ウォーク・ザ・ワールド」に参加する働く仲間

旭食品グループでは、認定 NPO 法人国連 WFP 協会が開催する「WFP ウォーク・ザ・ワールド」に参加する事業拠点が広がっています。

この催しは、途上国の子どもたちの飢餓ゼロを目的にした参加型チャリティイベントで、参加費の一部は国連 WFP の「学校給食支援」に寄付されます。

2016 年初開催より 6 回目となる大阪開催 (2023 年 5 月 27 日) では、近畿支社・大阪支店が参加。2022 年初開催より 2 回目となる名古屋開催 (2023 年 5 月 21 日) では名古屋支店・三重営業所が参加しました (いずれの事業拠点とも初回開催より連続参加)。両日とも新緑の季節の晴天



▲近畿支社・大阪支店の参加メンバー



▲名古屋支店・三重営業所の参加メンバー

に恵まれ、参加者の熱気と共に気温もぐんぐん上昇。イベントが大いに盛り上がる中、参加メンバーは全員無事にゴールにたどり着きました。

基礎的取組 地域との関係を深める



働く仲間が呼びかける清掃活動で地域貢献

——新居浜、徳島での清掃活動



旭食品グループの清掃活動は、地域の清掃イベントに参加する機会が多いのですが、旭食品側からアプローチして、主体となって行う清掃活動もあります。

2022 年 5 月、松山支店新居浜営業所の呼びかけで集まった従業員やその家族が所属するスポーツ少年団、老人会の方々など総勢約 70 名が、新居浜市内を流れる国領川の河川敷周辺のゴミ拾いやスポーツ少年団が使用しているグラウンドの除草作業を行いました。多くの方が散歩を楽しみ、子どもたちや学生がスポーツの練習に励む、この地域にとって大切な場所の清掃活動です。



参加した働く仲間 (従業員) からは「地域の方々と交流が生まれるだけではなく、作業中に感謝の声も掛けていただきました。今後も地域への貢献として活動を継続します」といった声がありました。

また、徳島支店は徳島県民が子どもの頃に遠足や行楽などでよく訪れて多くの方の思い出に残るとくしま動物園での清掃活動を行っています。動物園に申し出て、2022 年 11 月に従業員とその家族 22 名が参加して園内の落ち葉拾いに励みました。

今後も地域を愛する環境保全活動として、広がっていきたいと思います。



善意の輪を広げる

——京都支店ベルマーク回収活動

旭食品京都支店では、ベルマークやペットボトルキャップの寄付活動に取り組んでいます。2023 年 3 月 31 日には、近隣の京都府八幡市立中央小学校へ 5600 点分のベルマークを寄付しました。

京都支店には保育園や小学校に通う子どもを持つ従業員が多く、家庭で集めたベルマークは子どもたちの保育園や小学校に寄付されるため、支店内でベルマークの回収を呼び掛けてもなかなか難しい状況でした。そこで、京都支店を管轄する近畿支社に協力を仰いだところ、働く仲間が多くのベルマークを協力して集めてくれました。また、取引先のメーカー様にこのことを説明すると、多くの方が快く協力していただきました。



京都支店だけでは遅々として進まなかった活動も、周囲のご協力により予想より早く進みました。これからも周囲の方々に声をかけ、善意の輪を広げながら活動していきたいと考えています。

旭食品グループ 概要

概 要

- 創 業 1923 (大正 12) 年 10 月 3 日
- 資 本 金 5 億円
- 事業内容 加工食品・冷凍食品・チルド食品・酒類・菓子・家庭用品の卸売業、酒類・総菜・弁当の製造販売、水産物の加工販売 等

事業所 (2023 年 10 月現在)

本 社

東京本部、神戸事務所

中四国支社

高知支店
- 宿毛営業所
- 室戸営業所
松山支店
- 新居浜営業所
徳島支店
香川支店
広島支店
- 山口営業所
岡山支店
- 尾道営業所
境港支店

九州支社

九州中央支店
- 唐津営業所
- 宮崎営業所
近畿支社
大阪支店
和歌山支店
京都支店
- 舞鶴営業所
- 滋賀営業所
神戸支店

東京支社

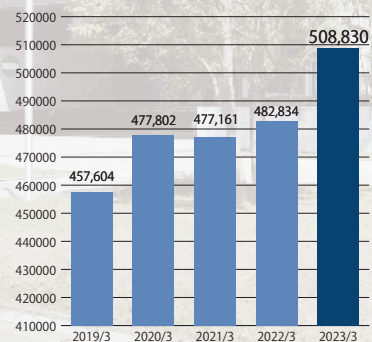
首都圏支店
- 埼玉営業所
関東支店
- 土浦営業所
- 古河営業所
- 群馬営業所
- 足利営業所
名古屋支店
- 三重営業所

グループ会社

旭フレッシュ(株)
酔鯨酒造(株)
デリカサラダボーイ(株)
(株)バルネットコーポレーション
(株)旭フードサービス関東
(株)フーデム
(株)大倉
Green Earth Power Japan (株)
旭フードサービス(株)
SAKURA FOOD CO., LTD.
(株)マスダ
かいせい物産(株)
ヤマキ(株)
(株)香西物産
(株)韓国築地
(株)キラリフーズ

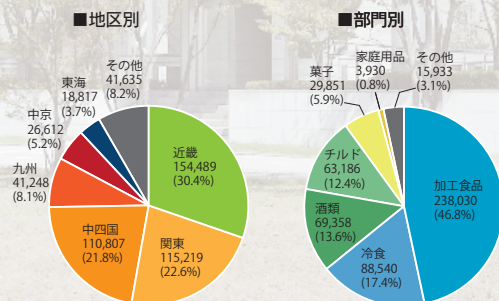
2022 年度業績 (2023 年 3 月期売上高 5,088 億 3 千万円)

売上高推移 単位: 百万円 (端数切り捨て)



2022 年 3 月期より収益認識基準適用

売上構成比 単位: 百万円 (端数切り捨て)



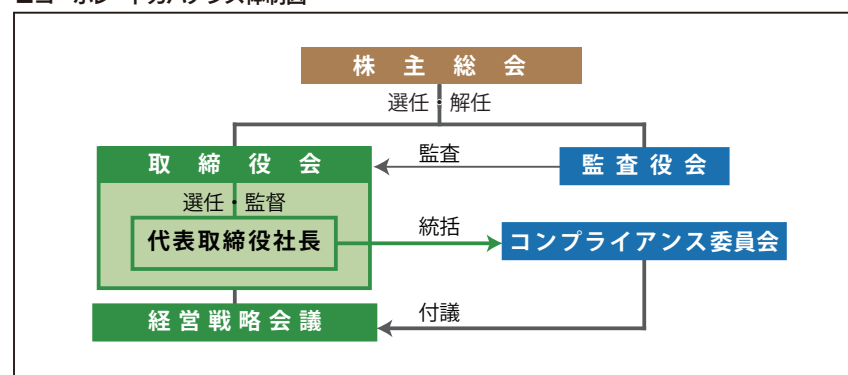
コーポレートガバナンスとコンプライアンスの基本方針

旭食品グループは、コーポレートガバナンスをステークホルダーに対する「価値創造力」を拡大するための経営統治機能と捉えています。「価値創造」とは、一方では事業活動を通じた「付加価値」の創造であり、もう一方は社会的使命の遂行による「社会価値」の創造です。コーポレートガバナンスは、継続的な付加価値創造と社会価値創造を導くために、内部

統制の土台を担っています。内部統制は常にガバナンスルールに照らして行っています。

また、私たちのグループは、コンプライアンスの実践を経営の最重要課題と位置付けており、コンプライアンスの徹底が経営の基盤であることを強く意識しています。企業活動において求められる法令の遵守を実践し誠実で透明性の高い企業活動を推進します。

■コーポレートガバナンス体制図



編集後記

旭食品は創業 100 周年を迎えました。各地域で取り組む CSR 活動は、清掃活動や沢あり商品の寄贈、高校生や地域メーカーとの商品開発、地域振興支援などに幅が広がり、従来から行ってきた活動はより深みを増しています。旭食品グループの取り組み地域貢献活動が進化し続け、今後 100 年、さらに

その先も続くよう、私たちも全力を挙げて各事業拠点の活動や地域課題の解決をサポートしたいと考えています。

今号で旭食品グループ CSR 報告書は 6 冊目になりました。ご協力をいただいた各方面の皆様へ深く感謝申し上げます。

CSR推進課